

このコーナーでは、静岡の企業が有する隠れた地域産業史的な建造物や文化財などを掘り起こし、紹介します。



街道を行き交う人々に300年間、
愛されてきた、素朴な味の羊羹

追分羊羹と最後の将軍・徳川慶喜公が眺めた庭
(本店でご覧いただけます)



明治初期、静岡に隠棲された最後の将軍 徳川慶喜公は、府川家をしばしば訪れ、仏間に座り、庭を眺めながら、お茶と「追分羊かん」を賞味されました。
街道を行き交う人々に愛された300年前の味は、今も変わらず好評です。

この羊羹は、小豆と砂糖でつくったこし餡を、竹の皮で包み、蒸しあげたもの。竹皮包みのまま、切って食べると、竹皮の香り、ほっこりした舌ざわり、まろやかであつさりした甘さが調和し、素朴で野趣のある味わい。「追分羊かん」と呼ばれ、全国に知られるようになりました。

明治初期、静岡に隠棲された最後の将軍 徳川慶

あるとき、当主の府川新助は、箱根の山中で、旅の途中で病んだ明(中国)の僧を介抱。その礼として伝授された羊羹を訪問客に出したところ、「売ったらよい」との声が多く寄せられました。

この道標のある角地で元禄8(1695)年から300年にわたり、羊羹を販売する府川家は、広大な田畑を所有する農家で、幕府の許可を得て、駒越から三保にかけてサトウキビを栽培し、砂糖を製造する元締めでもありました。

東海道の江尻宿(清水)から府中宿(静岡)にむかつて西へしばらく歩くと、左側に「是より志三つ道」と彫られた白い御影石の道標が建っています。ここを左に曲がると、清水湊に着くので、この交差点(追分)は大変にぎわいました。

株式会社 追分羊羹
静岡市清水区追分2丁目13-21
TEL.054-366-3257
<http://www.oiwakeyokan.com/>



株追分羊羹本店



徳川慶喜公、明治9年の書「静中観物化」
(明治という時代になり、静かな中にも、様々な物が良い方に変化していくのを観る)



しみづ道道標